



教育のひろば

甘楽中学校の取り組み

卒業を控えて

校長 瀬間一正
生徒 326人

統合二年目の平成二十九年度は、甘楽一中、二中の最後の生徒が甘楽中を卒業します。今回は、卒業を控えた三年生に、今の心境を書きつづってもらいました。

●● 中学校での思い出と ●● 高校生活 ●●

僕にとっては、学校生活の中で普段の生活が一番の思い出です。甘楽一中と二中が統合して新しい仲間も増え、部活動もより一層活発になりました。その中で、たわいないことで笑っていたことを思い出すと、とても充実した日々を過ごしていたのだと感じます。

高校に進学したら、新しい仲間を増やし、勉強と部活動を両立していきたいと考えています。そして、甘楽中以上に充実した学校生活、思い出となる日常を築いていきたいです。

(富岡帝貴)



1年生 一中・二中で仲間づくり(平成27年)

●● かけがえのない ●● 中学校生活 ●●

私たちは、中学校の統合というあまりできない経験をしました。私は、始めのころ、違う場所でごしてきた人たちが仲良くなれるの不安でした。でも、新しい仲間と色々なことを経験していく中で、そんな不安はなくなり、大切な仲間へと変わりました。中でも、学

年全員で行った立志式は、とても思

「教育のひろば」とは各学校や幼稚園の特色ある取り組みを紹介するコーナーです。編集委員は、教育委員会の広報委員会に所属する各学校や幼稚園の教員です。

い深いものになりました。学年全員で一つのものをつくりあげる大変さがありました。より団結力が深まるきっかけにもなりました。私はそんなかけがえのない経験ができた中学校、そして、それを支えてくださった方々に感謝し、胸を張って卒業したいと思います。

(廣田茜里)



2年生 統合後、全員で集合写真(平成28年)

●● 未来へと歩き出す ●●

桜が満開に咲く春、初めて制服を着て学校へ行ったあの日から、早くも三年がたとうとしています。

部活動やさまざまな行事を経て、仲間と協力し、励まし合い、喜びを分かち合うことで絆を深めることができました。私たちはそれぞれの道を歩んでいきます。統合という経験ができたこと、お世話になった先生方、そして共に過ごした仲間たち、全てが一期一会だと思えます。この三年間は最高の思い出となりました。

(佐藤玲奈)

●● 中学校の思い出と ●● これからの自分 ●●

僕の中学校生活一番の思い出は、三年生の京都・奈良の修学旅行です。自分たちで計画を立て、歴史的建造物を間近で見ることができ、感動しました。

今は、志望校に合格するために一生懸命勉強をしています。高校に入った後、勉強と部活の両立ができるようにがんばりたいです。高校では、中学校三年間で積み重ねてきた経験で身に付けた力を、十分発揮できるようにがんばりたいです。

(長岡大志)



3年生 校内合唱大会(平成29年)

●● いい思い出 ●●

私の甘楽中学校での印象的な思い出は、「校内合唱大会」です。クラスが一つのまとまりとして、朝の時間も練習に費やせたことが良い結果につながったのだと思います。このことから、日々の積み重ねが大切なことだと改めて認識しました。だから、私は今後の生活への抱負として、平日の朝から小さな積み立てを心掛けて、いざという時に備えられるようにします。

私は、残り少ない中学校生活を悔いの無いように全力で楽しみ、そして笑顔で終われるよう努力します。

(秋山太希)



3年生 奈良・京都修学旅行(平成29年)

●● たくさんの思い出 ●●

私の三年間の一番の思い出は、甘楽第一中学校と第二中学校の統合です。

最初のころは周りのみんななどなじめるか不安でいっぱいでした。しかし、すぐにたくさんの友だちができ、毎日楽しく過ごすことができました。また、新しい友だちと会うことで新たな自分を発見することもできました。残り少ない中学校生活の中で、高校に向けてたくさんの思い出をつくっていきたいです。そして、甘楽中学校の自慢の中学生として卒業できるように生活していきます。

(高橋花桜)

提言

甘楽中学校 二年のあゆみ

甘楽中学校 校長 瀬間一正



甘楽中学校が開校し、二年という月日が経過しようとしています。改めてこの二年間を総括してみたいと思います。開校当時の図書室は、運ばれてきた一万にも及ぶ図書が山でした。貸し出しもできません。この図書室をきちんと整理し、運営できる状態にしてください。それは保護者の皆さんです。楽しそうに図書の整理をしてください。本当にいい印象でした。本当にありがたかったです。

二宮金次郎の像は、特別な事情がないかぎり中学校にはありません。本校の像は故長岡今朝吉様が寄贈してくださったものです。生徒の登下校を見守るように建っています。

す。私自身は毎朝この像を眺めながら気持ち新たにしています。生徒たちも同様であってほしいと願っています。甘楽町の生徒の良さはほかの都市に勤務しているときから感じていました。そして今、町の生徒と一緒に生活しているのを見てみると、どの小学校の出身かも全くわからないほどに一体感があります。この一体感が甘楽中学校を支えてきてくれたし、これからも支えてくれる原動力となるであらうと思っています。

一年目二年目と大きく飛躍したというのが校長としての実感です。目につくものは部活動の好成績や新聞の俳句掲載数ですが、これらは、そこに至るまでの地道な活動が繰り返して行っているという努力の成果です。心を込めて行わなければ結果は出ません。結果が出たということがそれだけに素晴らしいことだと思えます。この力をさらに伸ばし、三年目がさらに大きく飛躍するであろうことを強く願っています。校歌にある「翼を広げ 鶴のよう」の歌詞のように。